

自分に正直に

盛岡商業高等学校 三年 下畑 尚輝

「自分の道を進め」などといった言葉をよく耳にするが、「自分の道」とは一体、何なのだろうか。

私は、今までずっと誰かに舗装された道を歩んできた。何か大きな選択を迫られた時、私はいつも、誰かに助言を求め、その助言通りに行動していた。進路選択や部活動の選択でも、自分の意志とは違ったものになることが多い。だから、今まで私が歩んできた道のりを振り返ると、いつも後悔ばかりしてしまう。

このように、後悔ばかりの選択をしてしまうのは、自分に夢がないからだろう。夢があれば、「自分の道とは何か。」と聞かれてもすぐに答えられるだろうし、その道のりは夢に向かって真つすぐで、後悔の無い道だろう。自分は、中々大きな夢や目標を持っていないで、自分の将来を不安に思ってしまうことや、周りと比べて自分の人生は、この先つまらないものだろうと思うことが多々あった。

しかし、だからと言って無理して夢を持つ必要は無いと思う。なぜなら、頑張って大きな夢や目標を探したとしても、結局はすぐに変わってしまったって一生追いかける夢にはならないと思うからだ。確かに、夢を持っている人はカッコいいと思うし、尊敬する。でも、夢や目標を持っているからすごい訳ではない。強い信念を持てる人に、私は憧れるのだと思う。

「ドリーム・ハラスメント、夢で若者を追い詰める大人たち」という、多摩大職員の高部大問さんが書いた本に、「日本社会は過剰に夢を持つよう強要し、もはやハラスメントレベルだ。」といった考えが書かれていた。私は、この言葉を読んでとても共感した。近年、ネットでもリアルでも、夢を持ってなどの内容の話や、そもそも夢や目標を持っているのが前提の話などをよく耳にするようになった。私は、このような話を聞くと、夢を持たなければ駄目なのかと焦っていた。実際に、私と同じ考えの若者は多くいると思う。しかし、この本にも著されている通り、夢は人生の必需品ではないのだ。夢がなくても幸せな人は大勢いるだろうし、夢ばかり追い求めてもうまくはいかないと思う。大切なのは、自分の気持ちに正直になって行動することだ。そうやって、一日一日を歩み続ければきっと真つすぐな道でなくても、後悔の少ない道になるだろう。

道とは、自分の数々の選択によって作られていくものだ。だから、夢や目標が無くて先の見通しが立ってなくても、今を大切にし、今は後ろを振り返らずに、ただ前だけを向いて自分に正直な選択をしていきたい。そして、最後に振り返ったときに、この道でよかったと思える道にしたい。